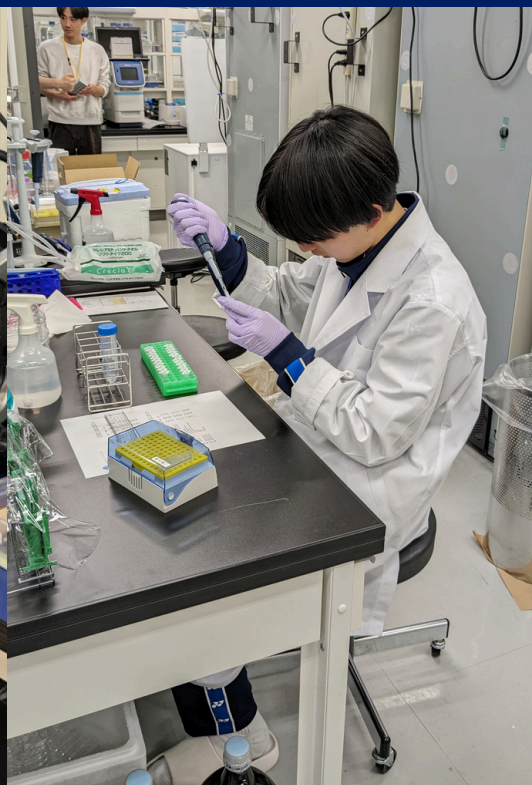




中学生 見学会

参加者募集

2025.3.1 土

● 場所 鶴岡メタボロームキャンパス
レクチャーホール

鶴岡市覚岸寺水上246-2



● 時間 13:30-16:00

【開場13:15~】

● 対象

**生命科学に強い関心のある
中学生とその保護者**

※生徒のみでの参加、または、親子での参加、
いずれも可能です。

● 申込締切

**2月27日[木] 12pmまで
定員 100名**

※申込が定員に達した場合は、締め切らせて頂く場合があります



● 申込方法

ウェブフォームからの事前申込制です。
詳細は左のQRコードからアクセスして
ください。

● お問い合わせ

慶應義塾大学先端生命科学研究所 事務室
a-seminar@iab.keio.ac.jp
TEL:0235-29-0805

慶應義塾大学先端生命科学研究所(IAB)では、
地元高校生とともに最先端の研究を行っています

慶應義塾大学先端生命科学研究所では、最先端のプロジェクトの「研究助手」として、隣接する鶴岡中央高校の生徒を採用しています。また、2011年度からは「特別研究生制度」を実施し、致道館、鶴岡工業、鶴岡中央、羽黒、鶴岡東、酒田東、酒田南高校の生徒が活動しています。夏休みには、全国の高校生が集う生命科学の研究コンテスト「高校生バイオサミットin鶴岡」、春休みには「Keio Astrobiology Camp」を実施し、県内外からたくさんの高校生が参加し活発に交流しています。



高校生 最先端の研究環境で挑戦
慶應先端研 最多33人助手・研究生受け入れ

鶴岡市の慶應義塾大先端生命科学研究所（荒川和晴所長）の高校生・研究助手・「特別研究生」の任用式・入学式が10日、同市寛岸寺の鶴岡メタボロームキャンパスで行われた。本年度は過去最多となる33人の市内・地域高校の1・3年生が選ばれた。最先端の研究環境を生かしてバイオサイエンス分野の研究に携わり、未来の科学者を担う。

研究助手任用は、先端研に隣接する鶴岡中央高校の生徒を対象に2009年度に始まった。放課後に研究所に通って研究プロジェクトに従事し、アルバイト代も研究助手、特別研究生として慶應先端研で研究に挑む地元高校生ら。

生命科学研究所（荒川和晴所長）の高校生・研究助手・「特別研究生」の任用式・入学式が10日、同市寛岸寺の鶴岡メタボロームキャンパスで行われた。本年度は過去最多となる33人の市内・地域高校の1・3年生が選ばれた。最先端の研究環境を生かしてバイオサイエンス分野の研究に携わり、未来の科学者を担う。

研究助手任用は、先端研に隣接する鶴岡中央高校の生徒を対象に2009年度に始まった。放課後に研究所に通って研究プロジェクトに従事し、アルバイト代も研究助手、特別研究生として慶應先端研で研究に挑む地元高校生ら。

生命科学研究所（荒川和晴所長）の高校生・研究助手・「特別研究生」の任用式・入学式が10日、同市寛岸寺の鶴岡メタボロームキャンパスで行われた。本年度は過去最多となる33人の市内・地域高校の1・3年生が選ばれた。最先端の研究環境を生かしてバイオサイエンス分野の研究に携わり、未来の科学者を担う。

研究助手任用は、先端研に隣接する鶴岡中央高校の生徒を対象に2009年度に始まった。放課後に研究所に通って研究プロジェクトに従事し、アルバイト代も研究助手、特別研究生として慶應先端研で研究に挑む地元高校生ら。

2024/5/12 荘内日報 1面



決勝に進み表彰を受けた左から菅原さん、工藤さん、後藤さん

地元の3人決勝進み表彰
高校生バイオサミットin鶴岡

全国の高校生が生命科学分野の研究成果を競う「第13回高校生バイオサミットin鶴岡」の表彰式が23日、鶴岡市先端研究産業支援センターで行われ、鶴岡北高3年の工藤真由美さん（17）が上位9つの賞の一つ国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞を受賞した。

慶應義塾大先端生命科学研究所と、鶴岡市が実行委員会をつくり、2011年から毎年、夏休みに開催している。今回は書類審査を経て、24都道府県とカナダから応募された95点（62校175人）が1回戦に進み、今月4日のオンラインによるライブプレゼンテーションを経て、成果発表部門20点、計画発表部門13点の決勝が21、22日に行われた。

表彰式では審査委員長の荒川和晴・慶應義塾大先端研所長が文部科学、厚生労働、農林水産、経済産業、環境の各大臣賞や優秀賞などを受賞者を発表し、計38個人・グループを表彰した。

科学技術振興機構理事長賞を受賞した工藤さんの研究テーマは「ポリダニ科の性認識とその識別能の研究」。ダニの雄が、誤って雄を雌と認識する現象に着目して原因を調べる内容で、審査員評語は「さまざまな角度から実験検証を行い、フェロモン処理により人為的に性認識を起すことに成功した。今後の研究の進展が生物学や生態学、農業分野の科学技術の発展に大きく寄与する可能性がある」と高く評価された。

庄内地域から決勝に進んだ発表では、優秀賞に酒田東高2年の菅原光貴さん（17）の「微生物の力でポリ乳酸から電気を作る」、審査員特別賞に同校1年の後藤心さん（16）の「フアラリ1病に関する新規治療法確立の検討」が選ばれた。このほか1回戦のプレゼンテーションを含めた賞として、鶴岡市内の高校生を対象にした鶴岡市長賞を鶴岡南高3年の渡辺杏さん、審査員特別賞を羽黒高3年の五十嵐龍翔さんが受賞した。

閉会のあいさつで荒川所長は「21世紀はバイオの時代。楽しくワクワクする研究を続け、やるべき研究に取り組み、人類の未来のための先導者になってほしい」と鶴岡に集った若き研究者たちへエールを送った。

2023/8/25 荘内日報 1面

中学生見学会 内容（予定）

- 荒川所長による慶應義塾大学先端生命科学研究所概要説明
- IABから生まれたバイオベンチャー紹介
- IABで活動する大学生、高校生による研究紹介
- ラボツアー
- 質疑応答

※内容は変更になる可能性があります。最新情報はウェブサイトをご覧ください。
※本見学会で主催者側で撮影した写真を、当研究所のホームページ、広報資料として使用させていただく予定です。予めご了承ください。

慶應義塾大学先端生命科学研究所
<https://www.iab.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学環境情報学部
先端生命科学研究会

センター棟 Campus Center
鶴岡市馬場町14-1
バイオラボ棟 Biological Laboratories
鶴岡市大宝寺日本国403-1

<https://bio.sfc.keio.ac.jp/>